



■発信元
 SPARCS事務局
 ■発行責任者
 院長 吉田茂昭
 ■連絡先
 青森県立中央病院 経営企画室
 (電話)017-726-8402

Vol. 2
 2013年 4月11日発行

フェンタニル貼付製剤 の使用方法について

日頃、SPARCSにご協力頂きありがとうございます。さて、この度皆様方からフェンタニル貼付製剤の使用方法についてご質問がありましたのでお知らせしたいと思います。

フェンタニル貼付製剤には、24時間製剤のフェントス[®]テープとワンデュロ[®]パッチ、72時間製剤のデュロ[®]パッチが当院では採用されています。

24時間製剤(フェントス[®]テープとワンデュロ[®]パッチ)の単回投与の血中濃度の推移は図1に示すように、ほぼ重なっており二剤における違いはありません。

24時間製剤の場合は、徐々に血中濃度が上昇して3~5日ようやく最高血中濃度に達してきます。

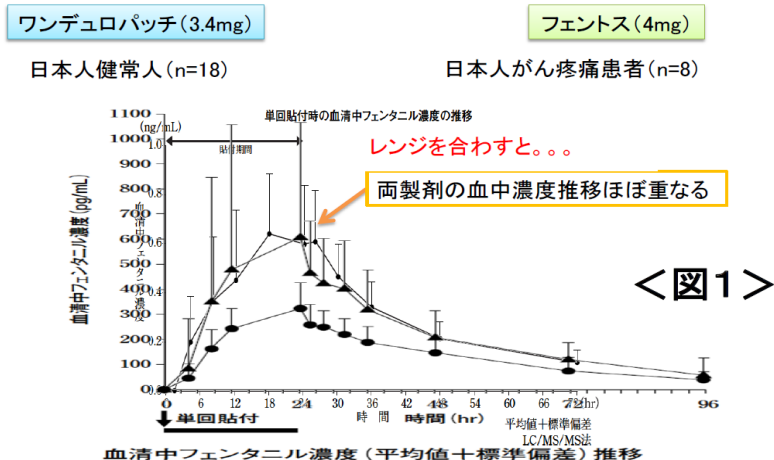
24時間製剤の場合、2日目ではまだ定常状態の77.7%しか達していないため、1~2

日毎に増量すると副作用が現れる可能性があります。(図2、図3参照)

実際に、先月当院でも24時間フェンタニル製剤を1~2日毎に増量した患者が転倒するヒヤリハットが報告されています。

安全第一と考えるなら3~5日毎に増量し、迅速に痛みを緩和する必要があるのであればフェンタニル貼付剤以外の薬剤で調整するようお願いします。

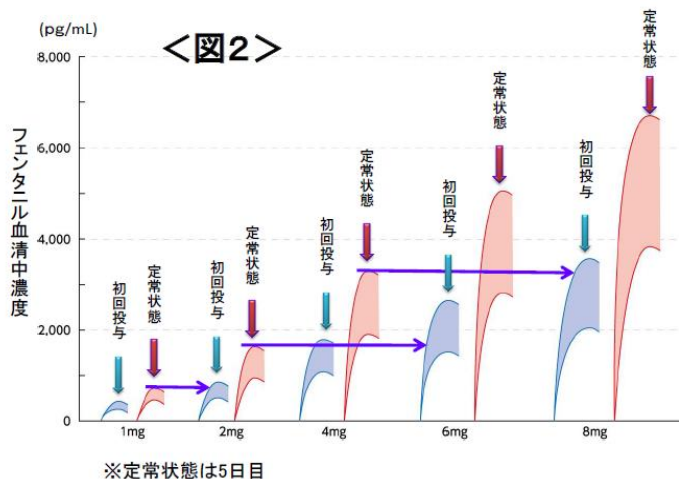
24時間製剤の単回投与の薬物血中濃度推移



<図1>

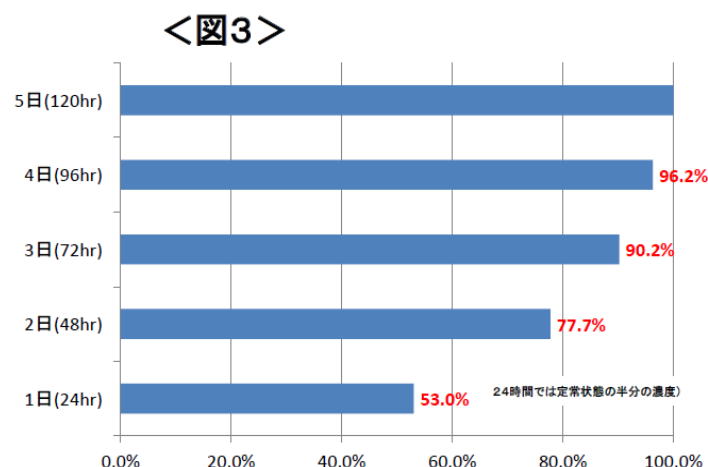
©NCC Matoba M., Kokubun H.

初回貼付(青)と反復投与(赤)の血中濃度の比較



©NCC Matoba M., Kokubun H.

5回目貼り替え時の血中濃度の比較



Topics

患者リスト配布のお知らせ

この程、皆様の疼痛治療にお役立て頂けるよう、「強い痛みがあるにも関わらず無治療」または「強い痛みがあるにも関わらずNSAIDs、アセトアミノフェンが投与されている」患者のリストを、がん診療センターの皆様にご配布することとなりました。

順次準備が整い次第、始めさせていただきますので、宜しくお願いします。